意欲的に英語学習に取り組む児童生徒の育成

～Relevance を高めたタスク活動の工夫を通して～

Ⅰ　研究主題の設定理由

急激に変化する社会において，今後ますます国際化が進展し，国際的な相互依存が深まると予想される。様々な情報媒体の発達により，世界中の情報を瞬時に得ることができる今，英語は国際的共通語としての役割も大きく，英語によってより多くの人々との交流が可能になる。2020 年の東京オリンピックを見据え，小学校における英語教育の拡充強化，中学校における英語教育の高度化を目指した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が出され,今後英語教育の担う役割はますます大きくなっていく。国際社会に貢献していくためにも，将来にわたり，英語学習に意欲的に取り組む児童・生徒の育成が急務であると考える。

本地区の児童・生徒を見てみると，英語特区の小学校が半数を占め，すでに英語科として「読むこと」「書くこと」も含めた４技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて，英語教育への関心が高い地域であると言える。一方，外国語活動にあまり意欲的に取り組まない児童や，語彙力や文法知識が定着していない生徒がいるという課題もある。英語特区で学ぶ児童がいる地域だからこそ，小中連携をより一層強化し，より意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成を目指していきたい。

私たちは小学校における外国語（英語）活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地や，中学校英語における語彙力や文法知識，教科書を読めることなどの「基礎学力」を児童・生徒に身に付けさせなければならない。このような基礎学力を身に付けさせていくためには，学習の原動力や推進力となり，最後までやり遂げようとする学習意欲を高めることが最も重要であると考える。山梨大学の田中武夫先生も，「現在の学校教育が直面している最も大きな課題の一つは，生徒たちの学習意欲が下がっていることです。～中略～学ぶことが知的に面白い，役立ちそうだといった生徒の内発的な動機をいかに高めていくかが，今の教育の大きな課題となっています。」(『英語教師のための発問テクニック～英語授業を活性化するリーディング指導～』p.4）と著している。

そこで，外国語（英語）活動において，児童・生徒自身との関連性や，既習事項との関連性をもたせたタスク活動（activity）を仕組むことで，学習者が活動を身近に感じ，より意欲的に英語学習にとりくむだろうと考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究の具体的な進め方

1　学習意欲についての研究をする。ARCS モデルを学ぶ。

・関連した身近な話題の提供　　・「書くこと」の自己表現活動を取り入れる。
・発問の工夫・疑似コミュニケーション体験　　どんな時に使われる？＝生徒との関連性
・身近な人物，話題を使い，親しみやすさと具体性を高める。
・視聴覚機器を使って視覚効果を高める。

・場面設定をして，課題をもたせ，どの場面でどのような表現ができるか明らかにする。

2　小中部会で分かれて具体的な活動を検討する。

・小学校部会では指導案の検討を中心に行った。より実践的な活動になるよう場面設定を心がけた。

・中学校部会では学年ごとに relevance を高める具体的なタスクを検討し,ワークシートを作成し,実践した。実践後は生徒のアンケートを元に意欲の高まりを検証した。

3　研究主題を意識した研究授業と研究協議

８月２９日　授業者　大村隆教諭（山梨南中学校）

２月　４日　授業者　岩下城教諭（牧丘第一小学校）

研究授業では①導入時に本時の学習内容を知り，意欲的に活動するための工夫，②ICT活用により意欲を高める，③場面設定の工夫により意欲をもたせるという点を中心に指導案を検討し，授業実践につなげた。授業研究では，研究討議を焦点化し,行った。

4　小学校外国語活動,英語科について学ぶ。

・文部科学省から出されている DVD を視聴し,小中の先生方で意見交換をした。また,山梨市の英語特区についての情報交換をした。

Ⅲ　研究の成果と課題

1　成果

サブテーマの方向性が明確になり,児童生徒の実態に合わせた研究を深めることができた。小中ごとの分科会や授業研究を通して,relevanceを高めるためのタスク活動を工夫することにより更に意欲的に学習に取り組ませることができた。前半はARCS理論に沿って①目標設定,②既習事項との関わり,③自分との関わり,④自分にもできそうな活動を整理した。その後,理論に基づき,実際にタスク活動を作成したり,研究授業を実践したりした。視点がはっきりしたことで討議の深まりが見られ,また,仮説を検証することにもつながった。児童生徒の意見も踏襲する中で,より実践的な活動を今後も取り入れていきたい。研究会は全体会と小中部会とをバランスよく設け,それぞれの研究を深めつつ,互いの情報交換を行い,学ぶことの多い研究となった。

2　課題

昨年度から研究テーマは同じであるが,サブテーマを変えたことで違う視点からテーマに迫ったことの成果はあったものの,複数年に渡る研究の積み上げができてないことが課題としてあげられた。また,小学校では具体的にイメージしにくい点もあった。同じテーマで研究を深めるためには,更なる小中連携と互いの情報交換が必要である。小中連携については,今後益々検討していかなければならない。小中の授業参観・情報交換にとどまらず,中学校１年生の指導方法・内容も含めた指導の流れを検討し,小学校から中学校への繋がりをよりスムーズにしていきたい。小学校英語科に向けて,山梨市の小学校英語科の先進的な取り組みを学び全体で共有していきたい。

（部長　塩山中学校　三枝ゆかり）